

アメリカ先住民史

おすすめの著書／



歴史の蹊、史料の杜
——史料体験が開く日本史・世界史の扉

成蹊大学人文叢書 20
成蹊大学文学部学会編
佐々木紳 責任編集
(風間書房、共著)

歴史学・地理学・社会学の専門家14名が、史料との出会いや研究の舞台裏を綴るエッセイ集。



アメリカ先住民を知るための62章

エリア・スタディーズ
149 阿部珠理編著
(明石書店、共著)

500超の部族、200以上の言語を有する「ネイティブアメリカン」についての入門書。歴史や現代社会における問題、文化や宗教を紹介。



チーム名としてアリ!? ナシ!?

『インディアン』表象と先住民

日本で「ネイティブアメリカン」と聞くと、「昔の西部劇に登場する、頭に羽根飾りをつけた人たち？」なんて想像する方がいまだに多いかもしれません。しかしアメリカ社会においては、そうした「ステレオタイプ（固定観念）」はいまや見直されつつあります。長らくアメリカ先住民史を研究してきた中野由美子先生はこう語ります。「2018年にメジャーリーグの『クリーブランド・インディアンズ』が、長年親しまれてきた『ワフー酋長』というキャラクターのロゴを廃止しました（後に球団名も改称）。理由は、ロゴの表現がネイティブアメリカンの尊厳を傷つけ、その文化への誤ったイメージを広めてしまうから。こうした抗議は長年行われてきましたが、近年ようやく、先

住民側の主張が社会に受け入れられ始めました」そもそもアジア系も含め、さまざまな人種の人々が偏見や差別に抵抗してきた歴史を持つアメリカ社会。なぜ、ネイティブアメリカンの権利回復はここまで遅れてしまったのでしょうか。「アメリカ社会にとって、『西部開拓』はひとつの定番ストーリー。映画でも何度も取り上げられてきました。映画やスポーツ界において、ネイティブアメリカンのイメージが古く誤ったものだったとしても『娯楽だから』との理由で黙認されてきたのです。アメリカのみならず日本においても、彼らを遠い世界の存在ではなく、尊重すべき対等な隣人として受け入れられるようになることを願ってやみません」



文学部 国際文化学科
中野 由美子 教授

COLUMN アジア人だからこそ、聞いたこと

もともとの研究テーマは、アメリカ政府が先住民に対して行った「同化政策」です。このテーマに本格的に取り組もうと思ったきっかけのひとつは、院生の時にある先住民の運動家の方に言われた「自分の回想録は日本語でなら出してもいい」という言葉。アメリカ人ではなく、第三者のアジア人だからこそ貢献できることがある。そう感じた瞬間でした。